

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463255

研究課題名(和文) 臨床看護師のキャリア発達を促す実習指導者のための教育支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an educational support program for the clinical nurse as a training leader of the nursing student

研究代表者

佐々木 史乃(SASAKI, Shino)

順天堂大学・保健看護学部・講師

研究者番号：20596332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：実習指導の体験は、『自己の成長を実感』させるものであった。影響要因として、学生指導に付随する『戸惑いから脱却』『自己を見つめ直す』『後輩育成』『教員との相互関係の成立』『他者からの支援』が抽出された。看護師のキャリアの促進要因として、良い看護が提供できた体験、職場内で承認、自己の成長を実感できる体験、意欲的に学習や職務に取り組むモデルの存在が挙げられるが、本研究では、それに加えて教員との相互関係が影響していることが明らかとなった。結果として、臨床看護師のキャリアを促進する教育支援プログラムの開発には、学生の実習指導を行う教員と現場の実習指導者のコラボレーションが重要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：Experience of teaching student nurse was "The growth was felt." Influence, "I escape from bewilderment." "I look back to oneself." "young people's education" "each other's relation with the teacher", it was "support from others". There are a case that the factor which promotes nurse's carrier realizes good thing which could be nursed, approval and own growth and existence of a role model. Each other's relation with the teacher as well as that influenced by this research.

Collaboration of the teacher who does teaching of a nursing student and a clinical nurse as a student training in a site is important to development of the educational support program which promotes a carrier of a clinical nurse.

研究分野：看護教育

キーワード：臨地実習指導者 キャリア発達 中堅看護師 教育支援プログラム 離職防止

1. 研究開始当初の背景

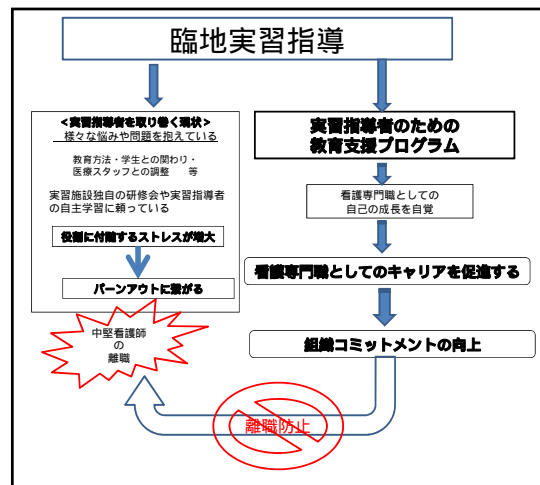
看護基礎教育において臨地実習は、患者個々に直面している看護現象を、学内で学んだ知識や経験を看護学生個人の中でどのように統合させるかという実践的な教育を重視しており、臨地実習でしか学べない人間関係や看護における倫理性、理論と実践の統合、医療チームにおける看護師の役割や連携を学修する大変貴重な授業と位置づけられている。

以上のような看護基礎教育における臨地実習の位置づけから、その役割を担う、教員および現場の臨地実習指導者の存在が極めて重要であることがわかる。しかし、臨地実習指導者は、実際の指導場面からの教育方法や学生との関わり、医療スタッフとの調整など、様々な悩みや問題を抱え役割に付随するストレスを増大させている。また、臨地実習指導者の役割に付随する様々な問題や悩みは、認識されているもの未だ解決されないまま繰り返されている¹⁾²⁾。さらには、バーンアウトに陥るケースも報告されている³⁾。その原因の1つには、実習施設独自の研修会や実習指導者の自主学習に頼っている場合が多く、臨地実習指導者を支援する方法やプログラムは存在しているが、臨地実習指導者の質を担保し、キャリアを促すような具体的方略の欠如にあると考えた。

臨地実習指導者は、看護観の確立、感性豊かな看護実践、看護職への誇り、後輩指導ができることが求められ、看護経験が豊富な中堅看護師(看護師経験が5~10年目の看護師)が選ばれる。昨今、新人看護師と同様に中堅看護師の離職が社会的問題である。2012年の日本看護協会の調査によると、離職の1つの原因として、求められる役割が多いことが示されている。研究代表者のこれまでの研究成果から、臨地実習指導の体験は様々な課題と向き合いそれらを乗り越えることによって自己成長することができ、教育への関心や臨床看護場面での専門性の追求など、キャリアを促進することがわかっている。中堅看護師の組織コミットメント(組織の一員として組織にとどまりたいという願望、組織の代理として努力しようとする意思)を高めるには、中堅の時期に実習指導を体験することが、看護職継続の意思を高めることにもなり、中堅看護師の組織コミットメントの向上にも繋がり、離職に歯止めをかけることができるのではないかと考えた。(図1)

2. 研究の目的

本研究では、臨床看護師のキャリア発達を促すことができる実践レベルでの応用を目指すために、臨地実習指導者の体験の語りに主眼を置き、丹念に読み解き、教育支援プログラムに必要な内容を導き出し臨地実習指導者のための教育支援プログラムの開発のための示唆を得ることを目的とする。



3. 研究の方法

本研究は、7名の臨地実習指導者を2グループに分けたフォーカスグループインタビューと9名の臨地実習指導者を対象とした個別インタビューを実施した。臨地実習指導者の選定は、データの偏りを防ぐために複数の施設に依頼し、看護部長または教育担当者からの紹介により選定を行った。その際、強制力が働かないよう十分な配慮を行った。分析方法は、質的帰納法を用いた。フォーカスグループインタビューでは、「指導の実際」に焦点を当て、個別インタビューでは、「指導の体験のうち自己の成長に影響をあたえた出来事」に焦点を当てコード化、カテゴリー化を試みて、カテゴリー間の関連を探索した。分析過程において看護教育に精通する2名の専門家からスーパーバイズを受けた。

倫理的配慮: 本研究は順天堂大学保健看護学部研究等倫理委員会で承認を得ている(第29-4号)。研究は施設長および研究協力に対し、本研究の趣旨、方法、プライバシーの保護に関する内容を文書および口頭で説明をし、自由意思に基づき協力を得て研究を実施した。

4. 研究成果

1) フォーカスグループインタビュー

対象者は、20~30歳代の男性1名、女性6名の計7名であった。計7名の対象者を無作為に3名と4名の2グループに分けた。職位は、主任3名、スタッフ4名であり、看護基礎教育の学歴は、短期大学1名、専門学校5名、専攻科1名であった。また、臨地実習指導者としての経験は、1年~12年と幅があり、臨地実習指導者になった経緯は、経験年数、研修会の参加歴、新人指導などの経験から上司からの指名であった。インタビューの時間は、3名グループが1時間06分、4名グループが1時間20分であった。

フォーカスグループインタビューの結果から、

基礎看護実習における実習指導の方法の実態として、【学生の特徴を捉える】【そ

の後の実習の導入として捉える】【自分自身の指導の方向性や方法に悩む】【スタッフや教員を巻き込んだ学びやすい環境をつくる】【相互作用から得られる効果を実感する】の5つの大カテゴリーが導き出された。

臨地実習指導者は、看護学生にとって初めての实習をその後の実習の導入として捉え、看護の楽しさを教えること、支援型のかかわりを意識した指導を行っていた。

短期間で意図的な指導を行うために、教員と臨地実習指導者が共有できるような実習指導案の作成・活用方法の検討が必要である。また、実習指導案を取り囲みながらリアルタイムに、指導の相談や振り返りができるシステムを構築していく必要性が課題として残された。

2) 個別インタビュー

9名の対象者の平均年齢は35.11±3.52、経験年数は14.78±3.03ですべて女性であった。職位は、主任7名、スタッフ2名であり、看護基礎教育の学歴は、短期大学3名、専門学校6名であった。また、臨地実習指導者としての経験は、3年～9年で平均6.7年(SD1.6)であった。インタビューの時間は、26分29秒～53分41秒、平均36分97秒(SD10.3)であった。

個別インタビューの結果、

臨床看護師が体験する臨地実習指導は、【自己の成長を実感】させるものであった。その影響要因として、学生指導に付随する【戸惑いから脱却】【自己を見つめ直す】【後輩育成】【教員との相互関係の成立】【他者からの支援】の6コアカテゴリーと19のカテゴリーが抽出された。

不安や自己流の指導で戸惑いながら指導にあたり、壁にぶつかったときに、教育的な教員との出会い、考えを洗練させるような研修会や上司の後押しがあった。また、指導することで自身の看護や指導の内省も促進していた。さらに自身の成長を実感するだけでなく、後輩育成の視点も育んでいた。

看護師のキャリア発達の影響要因として、良い看護が提供できた体験、職場内で承認を受けるなど自己の成長を実感できる体験や、意欲的に学習や職務に取り組むモデルの存在が挙げられるが、本研究では、それに加えて教員との相互関係が影響していることが明らかとなった。看護師の成長には学生の実習指導を教員と指導者を含めた臨床と教育現場とのコミュニケーションの必要性が示唆された。

3) 考察

臨地実習指導の「指導の実際」を明らかにしたフォーカスグループインタビューと「指導の体験のうち自己の成長に影響をあたえた出来事」に焦点をあてた個別インタビュー

の結果の共通性や関係性から、キャリア発達を促進する教育支援プログラムに必要な要素として、支援的な指導方法の確立 壁を乗り越えるための支援 実習指導に携わる教員と臨地実習指導者の相互関係の成立が必要であると考えた。

支援的な実習指導方法の確立

学生の学びを支援する臨地実習指導者や教員は、短期間で実習目的や目標を達成させるために連携をとり、学生のレディネスを把握し、臨地実習でしか学べないことを精選し看護の喜びを体感できるような関わりが求められる。また、看護学生にとって臨地実習指導者との出会いや関係性は、看護師としてのロールモデルの構築にも影響を及ぼすこともあり⁴⁾、臨地実習指導者の責務は大きいといえる。昨今、臨地実習指導者は自己が体験した指導や自己流の指導方法に悪戦苦闘し、場合によりバーンアウトに繋がっているという報告もある。このような状況に対応していくためにも臨地実習指導者は、多種多様な学生背景や場面に応じた教育の基本を学ぶ必要がある。成人学習者の特徴として、すぐに使えるような実用的な知識・技術を身につけたいという強い動機を持っており、さらに、これまで得た経験や知識との関連づけでそれらを理解しようとすることや一つ一つの事象を経験や既知の事柄と関連づけ意味をもたせていくと容易にそれを理解し、学ぶことができる⁵⁾。と言われている。

また、ロジャースは、成人の学習がうまくいくためには「活動」-何かを行うこと、「振り返り」-その経験について考えてみる、「理論とのつき合わせ」-その経験が理論的な考え方とどこまで一致するか、考察すること、「実践に移すこと」-その学習を実際の問題に適用してみるという学習サイクルをたどることが必要であると述べている⁶⁾。本研究からも導き出された、【自己を見つめ直す】という臨地実習指導者の体験は、成人学習者としての学習に影響を及ぼす機会の1つであることがわかった。また、これらの体験は、上司や担当する教員の影響が大きいことが本研究結果から明らかとなった。組織は、中堅看護師の役割の1つとして、臨地実習指導者の役割を与え、臨床看護師としてのキャリアを促進させるねらいを期待している場合が多い。以上のことから、個人のキャリアを促進すること臨地実習指導者の質を担保することと組織コミットメントの向上を意識した教育支援プログラムの構築が必要であると考えた。そのためには、ロジャースのいう学習プロセスの中での「振り返り」と「理論のつき合わせ」を手助けできるような教育支援プログラムの内容と成人学習者の特徴を活かした、学ぶタイミングと学ぶ内容を考慮することが課題として残された。

壁を乗り越えるための支援

臨地実習指導者は、看護学生への指導を通して、【自己を見つめ直す】ことを日常的に

行っており、その繰り返により、【戸惑いからの脱却】を体験していた。藤岡ら⁷⁾は、「多忙な日常では見逃されやすいが、患者の細やかな言動の意味を深く考えるという大切な看護の基本と感性を、学生の学びに直接触れることで臨地実習指導者も思い起こすことができる。看護学生にとって“新しい学習の場”である臨地実習は、臨地実習指導者にとっても看護師として成長していく機会をふんだんに与えられている場でもある」と述べている。臨地実習指導者の役割が与えられている中堅看護師は、日々、多忙な業務と責任ある業務を多々任され疲弊している状況であるといえる。そのような中堅看護師が、臨地実習指導者を担うことは、看護学生の指導に集中し、日常的な業務から一歩離れ、俯瞰して臨床の現象を見つめることができる良い機会であると言える。また、学生と同じ目線に立ち戻ることによって忘れかけていた看護の基本を学び直す機会にもなる。まさに、実習指導者の役割こそが、臨床看護師としての成長の機会であると考えられる。臨地実習指導に関連する様々な問題や悩みは多く存在するが、これらの壁を乗り越える体験こそが自己の成長に結びつくと考えられる。よって、臨地実習指導者に対し、現象の概念化や看護の意味づけができるような教育支援プログラムが重要であると考えた。

教員と臨地実習指導者の相互関係の成立

不安や自己流の指導で戸惑いながら指導にあたり、壁にぶつかったときに、教育的な教員との出会い、考えを洗練させるような研修会や上司の後押しがあった。また、指導することで自身の看護や指導の内省も促進していた。さらに自身の成長を実感するだけでなく、後輩育成の視点も育んでいた。看護師のキャリア発達の影響要因として、良い看護が提供できた体験、職場内で承認を受けるなど自己の成長を実感できる体験や、意欲的に学習や職務に取り組むモデルの存在が挙げられるが、本研究では、それに加えて教員との相互関係が影響していることが明らかとなった。社会人の能力開発の70%以上は経験によって説明できるといわれている。つまり、教育や研修が社会人の成長に影響する部分はわずかであり、そのほとんどが職場での業務経験を通じてもたらされるという。しかしながら、単に業務を経験しさえすれば成長できるわけではない。実際、成長につながるような体験もあれば、そうでない体験もある。あるいは、同じ体験をしたとしても、成長できる人もいればできない人もいる。本研究結果から、体験を通じて成長していくための重要な要因の一つとして、他者との相互関係が重要であると考えた。デューイ(Dewey, J)⁸⁾は、経験とは自分を取り巻く環境との相互作用であるといい心理体験を通じて成長するためには、「他者」という触媒が欠かせないといえる。社会人は、他者からアドバイスを受けて、他者と切磋琢磨したりして、あ

るいは他者をロールモデルとしたり、反面教師にしたりして、さまざまなことを学び取り、自己成長を遂げていくと考える。以上のことから、臨床看護師の成長には学生の実習指導を教員と指導者を含めた臨床と教育現場との良好な相互関係が重要であると示唆された。

4) 結論

臨床看護師の実習指導の体験を質的帰納的に分析した結果、以下の結論を得た。

実習指導者の指導の実際として、【学生の特徴を捉える】、【その後の実習の導入として捉える】、【自分自身の指導の方向性や方法に悩む】、【スタッフや教員を巻き込んだ学びやすい環境をつくる】、【相互作用から得られる効果を実感する】体験が導き出された。

臨床看護師が体験する臨地実習指導は、【自己の成長を実感】させるものであった。その影響要因として、学生指導に付随する【戸惑いからの脱却】、【自己を見つめ直す】、【後輩育成】、【教員との相互関係の成立】、【他者からの支援】が導き出された。

臨床看護師のキャリア発達を促す実習指導者のための教育支援プログラムには、支援的な指導方法の確立、壁を乗り越えるための支援、実習指導に携わる教員と臨地実習指導者の相互関係の成立が重要であると考えた。

5. 主な発表論文等

〔論文〕(計 1 件)

佐々木史乃、石塚淳子、藤尾祐子、瀧口真知子、野村志保子：基礎看護実習における指導方法の実態～フォーカスグループインタビューによる実習指導者の語りから～、順天堂大学保健看護学部順天堂保健看護研究第3巻、p33-41、2015。(査読有)

〔学会発表〕(計 3 件)

佐々木史乃、石塚淳子、藤尾祐子、瀧口真知子、野村志保子：基礎看護実習における指導方法の実態～フォーカスグループインタビューによる実習指導者の語りから～、順天堂大学保健看護学部順天堂保健看護研究第3巻、2014年8月(静岡)

佐々木史乃、石塚淳子、藤尾祐子：基礎看護実習における実習指導者の指導の特徴～テキストマイニングによる分析～、第35回日本看護科学学会学術集会、2015年12月5日(広島)

佐々木史乃、石塚淳子、藤尾祐子、瀧口真知子：実習指導者の体験が臨床看護師としての成長に及ぼす影響、第22回一般社団法人日本看護研究学会東海地方会学術集会、2018年3月10日(名古屋)

〔その他〕(計1件)

佐々木史乃：招待講演「日本における実習指導の現状と課題」、西北民族大学第

一臨床医学院、寧夏人民病院、2017年3月（中華人民共和國 銀川市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 史乃 (SASAKI, Shino)
順天堂大学・保健看護学部・非常勤講師
研究者番号：20596332

(2) 研究分担者

石塚 淳子 (ISHIZUKA, Junko)
順天堂大学・保健看護学部・先任准教授
研究者番号：50329520

藤尾 祐子 (YUKO, Fujio)
順天堂大学・保健看護学部・准教授
研究者番号：60637106

濱口 真知子 (HAMAGUTI, Machiko)
順天堂大学・保健看護学部・非常勤講師
研究者番号：10596331

引用文献

- 1) 高木薫：臨地実習における指導者のもつ問題 文献に見る臨地実習指導上の悩みや困難，神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録(1341-8661), 26, p174-181, 2001.
- 2) 高橋悦子，松本千恵子，池田光子，他：臨地実習指導者が実習指導を通して抱く思い アンケートの自由記述の分析より，日本看護学会論文集 看護教育(1347-8265) 40号 p158-160, 2010.
- 3) 金子美香子，鈴木のり子，菅野寿美子：臨地実習指導者の指導に対する意識 やりがいと関心度、自信度、負担度の関係，日本看護学会論文集 看護教育(1347-8265), 36, p227-229, 2005.
- 4) 淵野由夏，加藤法子，中野榮子 他：基礎看護実習 の実習前後における看護師イメージ変化の比較検討，福岡県立看護学研究紀要，5(2) 89-96, 2008.3.
- 5) 渡邊洋子：生涯学習時代の成人教育学 学習支援へのアドヴォカシー、明石書店、初版第5刷, p57, 81, 2104.
- 6) Jenny Rogers (原著)，藤岡 英雄 (翻訳)：おとなを教える 講師・リーダー・プランナーのための成人教育入門，徳島大学生涯学習研究会 (翻訳)，1997.
- 7) 藤岡完治，屋宜譜美子：看護教育講座 看護教員と臨地実習指導者，医学書院，2004.
- 8) 早川操：デューイの探究教育哲学 相互成長をめざす人間形成論再考，p2~3，名古屋大学出版会，2001.